

第3回長浜港内港埋立事業基本計画検討会

日時：令和6年5月17日（水）

18：40～

場所：大洲市長浜ふれあい会館

4階大ホール

委員の皆様から次のような意見が出されました。

委員 1	・埋立事業全体に関しては言えば反対的な意見が若干多いのではないかと。個別の項目に関しては、概ね賛成された上で、施設に対する提案といった意見である。私も地元で商売をしているが、お客さんとの会話では7割、8割の方が埋立てをして色々施設を整備してもらった方がありがたいという意見であり、長浜地域と他の地域で温度差を感じるが実際はどのようなのか？ 【大洲市回答】 ・事務局の意見としてはパブリックコメントの結果を全体的にみると賛成の意見の方が若干多い。
委員 2	・パブリックコメントの結果を見て、市民の皆様が非常に関心を持っているということを感じた。賛成、反対両方の意見があることは十分承知しているが、我々、長浜町民にとってはこの事業は長年要望しており、皆で成し遂げようとここまでやってきた。最後のチャンスであるので是非チャレンジしていただきたい。 ・埋立事業が完了すると長浜は大洲市の玄関であるため、大洲にも人は流れていく。豊予海峡ルートの整備も話題になっているが、この国道378号というのは非常に重要な道路であり、交通の中心になるので、是非事業を成し遂げてもらいたい。
委員 3	・長浜は、大洲市の北の玄関口として整備すればかなり利用度もあるのではと思っている。北の玄関口長浜、中心の大洲、奥の肱川・河辺これらを上手く連携し、人を回遊させるという施策について、これから埋立事業を進めていく間に考えていただきたらと思う。 ・埋立事業は長いスパンで行われるので、若い方の意見を十分に取り入れ、これからこの計画を進めていただきたい。
委員 4	・長浜を点で考えるのではなく、大洲市全体を一つの面として考えて、長浜地域での購買力が上がることで大洲市全体の消費が上がっていくという考え方が大事だと思っている。松山から大洲に行くまでの玄関口として活用してもらうのも大切なことだと思うし、先ほど話に出た豊予海峡を渡るのに是非長浜を経由して佐田岬に抜ける道の一つの線の途中の場所として活用することが大事だと考えている。 ・ぜひ次の世代、今の若者と次の世代を担う後継者がいるお店のために

	もこれが最後のチャンスになるのであれば、その若者にチャンスを与える機会をつくってほしいと切に願っている。
委員 5	・パブリックコメントの結果を見せてもらって、すごく不安になった。 今更ではあるが、大洲市全体で住民投票ではないけど、若い世代とかを中心に皆に意見を聞いてみてもいいではと思った。
委員 6	・このパブリックコメントの結果が、このまま市のホームページで公表されるのであれば、意見の No.40 の市からの回答で、「道の駅への商品を卸すことやテナントとしての出店について意欲的な回答を得ている」とあるのを変更していただけたらと思う。第 2 回の検討会の資料では確かにそういう方もいるが、意欲的でない方もいると思う。商工会の青年部でもいろいろ話をしたが、実際に出店したいという人は今のところあまり聞こえてこない。 ・大洲市全体でどんどん出店してください。広く募っていますというようなことを書いていただければ、ソフト面の改善にもなるかと思う。
検討会会長	【パブリックコメントの結果について】 ・もちろん数も重要であるが、反対の内容が事業費に対するものが非常に多いかと思うので、それについては、大洲市の回答にもあるとおり、関連機関との密な連携等によって事業費が軽減できるのではと思う。 もう一つ大きな反対の理由として環境に関することがある。これについても今後、環境影響調査をした上で埋立事業を実施するか否かというところを検討していくというようなスケジュールになるのではと思う。 反対の方々の意見も環境に関しては、環境影響調査というところで十分くみ上げられていくと思うし、財政面については、この後、市議会等で議論されていくのだろうと思う。 【豊予海峡ルートについて】 ・豊予海峡を繋ぐには風の影響などを考えると橋というのはあり得ないので、トンネルで繋ぐしかない。 愛媛県側のトンネルの出入口はおそらく三崎くらいになると考えると、今の交通ネットワークとほぼ変わらない。フェリーも三崎港の方が距離も当然短いということもあってネットワークで非常に有効な経路である。しかも今、熊本県に半導体の大きな工場ができるがインパクトがものすごく大きい。何万人という人口が増えるが、単にその工場の町だけ潤うのではなく、半導体は今後、世界中でどんどん増えていくようなものなので、そういったことを考えたときに国内輸送もぐると山陽道をまわるよりも四国を通ったほうが圧倒的に近い。 東京、大阪など大きな工場への半導体の輸送を考えると、この長浜というのはまさにその経路にあるということを考えれば実はチャンスはある。 環境面を配慮しながらも、この長浜を活性化していくというのは、今ちょうど大きな分かれ目なので、どちらに振るかというのは思案のしどころだと思う。 地域計画や交通系の研究をしている者としては、やはりこの長浜は非常にキーポイントになるような場所であると思う。

【地域で支えていく仕組みについて】

・確かに金額的には全体で 92.8 億円というのが現段階の試算である。これについては補助金等を活用することで 20.4 億円が大洲市の実質負担の目安になっている。これが埋立事業の期間、18 年間での額ということで考えたら、大きい小さいかというのは色々な判断があるとは思いますが、公共事業的に考えたときに私個人の感覚としては、それほど大きな額ではないと思う。当初思っていたのはもっと大きな額であったが、建設残土を上手く活用するとかそういったところでここまで圧縮できたのだと思う。

そう考えた時に、思ったより安いから OK とするのではなく、お願いしたいのは地域で支えていくようなことを、その仕組みの方を是非、埋立事業とともに進めていただきたいと思う。

この会議が始まる前に長浜高校を応援する会が開かれ、様々な議論を地域の方が一緒にされているという話を聞いたときに、このようなことを一つ一つ積み重ねていくことによって、この埋立事業の施設整備が完了した暁には実際に使われていく施設になっていくのだろうと思う。

パブリックコメントの中に「昭和の公共工事を彷彿させる」というような文言があったが、確かに施設だけを見れば昭和のものというように思われるような節もあるかと思うが、そうではなく、この施設をどう地域で使って行くような仕組みをこれから作り上げながら、実際にその仕組みを回していくというようなことをやっていかないと、おそらくどんなものを造って、どんなに安く上がったとしても使われ続けられないだろうと思う。

是非、この長浜を中心にして、この施設の活用ということについて、今から検討いただくと同時に、今、この長浜を盛り上げていくというような姿勢で活動していただけると非常にありがたい。

もちろん愛媛大学も協力できることは協力させていただきたいと思っている。

【基本計画について】

・私の場合、基本計画というのはここまで詳細なものでなくて、割と文言だけでさらっとしたもの。このレベルになると基本計画ではなく基本設計との間というようなイメージである。具体的なイメージができるようなところまで言及されているので、たくさんのご意見をいただいたと思っている。

埋立事業はそうそう簡単にはいかないこともあるので、この長い年月を是非伴走していただきながら地元で盛り上げていただかないと、途中で息切れしてしまうこともあるので、是非この計画そのものだけでなく、長浜の色々な活動を盛り上げていったその延長上にこの計画の施設が出来上がるという形になるといいなと思う。今後とも長浜の地域活性化について皆様の力を出していただきたい。